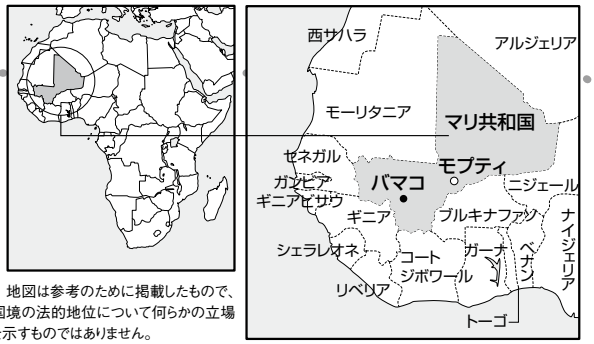
ユニセフ子ども物語
地球に生きる子どものくらし

Republic of Mali

マリ共和国



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

きれいな水がぼくたちの生活を変えた

12歳のムサは、マリのモプティ地方にあるジリジェラ地区に家族と暮らしています。一家は遊牧民でしたが、少しでも生活を良くしようと、村のはずれに住み始めました。ムサは、以前は小学校に通っていましたが、生活が苦しくなったため、学校をやめ、今は家畜の放牧を手伝い、幼い弟や妹の面倒をみています。

ムサたちが住んでいる家のそばには、地面に穴を10メートルほど掘っただけの井戸しかありません。泥が混じり、茶色く濁った井戸の水だけが、ムサの家族が使える唯一の水です。ジリジェラ地区では、汚い水を飲んで、下痢や寄生虫病になる人が多くいますが、ユニセフの支援により、この地域に手押しポンプ付きの深井戸が作られることになりました。地下50メートル以上まで穴が掘られると、地面から水が吹き出しました。水が出てくると、深井戸の完成を待ちわびていたムサや住民たちは歓声を上げ、飛び跳ねて喜びました。いたるところに笑顔があふれ、うれしさのあまり、泣いている人もいました。

井戸ができて約1年がたつと、ムサと家族の生活は、大きく変わりました。ジリジェラ地区では下痢になる人がいなくなりました。ムサの弟や妹は、毎日体を洗えるようになり、皮膚や目の病気にもかからなくなりました。家族は洗濯した服を着られるようになり、人前に出ることが恥ずかしくなくなりました。ムサのお母さんやお姉さんは、井戸のそばに家庭菜園をつくり、ねぎやいも、豆をつくっています。いろいろな種類の野菜を食べられるようになり、大人も子どもも健康になりました。手押しポンプ付きの深井戸からは、清潔で安全な水があふれだし、ムサと家族の生活に健康と希望をもたらしました。

「井戸は、僕たちの生活を大きく変えてくれたんだ。どんなに良くなったかを一言で言うなんてできないよ。」とムサは笑います。「お金がたまったら、僕もまた学校に行けるかもしれない。弟や妹たちにも、学校に行ってほしいな。」ムサは元気よく話します。

<文・構成：(財) 日本ユニセフ協会>

物語の国
マリ共和国

西アフリカの内陸にあるマリ共和国。中南部に広大なニジェール川が流れ、世界遺産や音楽など豊かな文化を持っています。国土の65%が砂漠もしくは半砂漠のため、乾季になると日中の気温は45度近くにも上がり、自然環境が極めて厳しい国です。

©日本ユニセフ協会/2008/Hisashi
地下50m以上から水をくみ上げる

健康を守り、生活をうるおす水を子どもたちに

マリの子どもたちの現状

マリの人口は、1,240万人、そのうち47%が14歳未満の子どもです。国民の約70%が暮らす農村部には、インフラや社会サービスが行き届いておらず、農村部に暮らす子どもたちの生活は、特に厳しくなっています。5歳未満児死亡率は、出生1,000人あたり217人と世界で6番目に高くなっています。

©日本ユニセフ協会/2008/Hisashi
赤ちゃんを洗う母親

農村部では安全な水を利用できないために、多くの子どもたちが下痢やコレラ、トラコーマ（慢性結膜炎）など、水に関する病気にかかっています。マリでは、5歳未満の子どもの死亡原因のうち、約15%が下痢性疾患です。また、不衛生な水の使用が原因でかかる寄生虫病やメジナ虫の幼虫や卵を持ったケンミジンコに汚染された水を飲むとかかるメジナ虫病の発症も多数確認されています。これらの病気から子どもたちを守るためには、清潔で安全な水を供給し、衛生習慣を定着させるなど、衛生的な環境が欠かせません。

マリの状況

（よりくわしい統計は『世界子供白書2008』をご覧ください）

項目	数字
5 歳未満児死亡率（2006 年）	217 人 （出生 1,000 人あたり）
改善された水源を利用する人の比率（2004 年）	都市部 78%　農村部 36%
適切な衛生施設を利用する人の比率（2004 年）	都市部 59%　農村部 39%
1 日 1 米ドル未満で暮らす人の比率 （1990-2005 年）	36%
1 人あたりの GNI（2006 年）	440 米ドル

出典：『世界子供白書 2008』

みんなで使う大切な井戸

マリには、約12,000の村がありますが、そのうち2,200の村には、清潔で安全な水源がありません。不衛生な水は、子どもたちの命や健康を奪います。体調がすぐれず、学校を休みがちになったり、授業がわからなくなって、学校をやめてしまうことにもつながります。ユニセフは、農村部で清潔で安全な水を供給し、衛生習慣を普及させる活動を通じて、衛生的な環境を整備し、健康状態を改善することを目指しています。井戸の建設にあたっては、各村で村人が主体となって、男女のメンバーから構成される水管理委員会をつくり、井戸の使い方やルールを決め、衛生習慣の普及活動を行っています。

物語に出てくるムサの家族は、作った野菜などを市場で売ることができるようになり、稼いだ収入の中からポンプが壊れたときに備えて、毎月修理費を積み立てています。ユニセフは、住民たちが井戸を継続して使用していけるように、井戸のメンテナンスについてのトレーニングを実施したり、修理に必要な工具や部品の提供を行ったりしています。

子どもたちの命を守るために

開発途上国で子どもたちの命を奪うマラリアや急性呼吸器感染症、下痢性疾患などの病気の原因には、水が関係しています。マラリアを媒介する蚊は、不衛生な状態でたまっている水に卵を産みます。家庭でも水の保管状況が悪いところでは蚊が発生してしまうのです。不衛生な環境下では、急性呼吸器感染症を発しやすく、また汚い水は下痢性疾患をまねきます。

これらの病気から子どもたちの命を守るためには、水に関する衛生的な環境を整えることが第一ですが、さらに家庭でもできる4つの方法があります。①マラリア予防のため、殺虫処理を施した蚊帳の中で眠ること、②赤ちゃんに栄養と免疫力を与えるため、生後6ヶ月は母乳のみを与えること、③石けんを使って手洗いをすること、④下痢になったときには、ORS（経口補水塩）を溶かした水を飲ませ、脱水症状を防ぐことです。ユニセフは、コミュニティや保健センターでこれらの普及活動に取り組んでいます。

©日本ユニセフ協会
「病気にならなくなった」と話す女の子